

第5学年2組 社会科学学習指導案

場所 5年2組教室 指導者 安倍 堅介

1 単元名 これからの自動車づくりプランを提案しよう（自動車の生産にはげむ人々）

2025年版ものづくり白書（経済産業省）において、日本の製造業に関して新規学卒者の入職割合が8.6%であると示された。20数年前には約20%であった入職率も年々減少し、半分以上の割合へ減少している状況である。これは若者の工業生産に対する無関心や工業生産に自分事として関わり、その背景に存在する生産者側の願いや思いにふれる学習の機会の少なさが起因しているのではないかと考える。本校の子どもたちに目を向けると、身の回りの工業製品は知っていても、ものづくりにこめられた願いや思いにまで気付いている子は多くはない。

そのような子どもたちに、工業生産に携わる人々は消費者のニーズや社会の状況を大切にしていって、願いや思いをもって優れた工業製品を生産するよう工夫し、工業生産を支えていることに気付いてほしいと切に願う。自動車づくりについて多面的・多角的に追究するなかで、これからの工業生産において大切なことに気付いていく子どもの姿を目指す。

そこで本実践では、トヨタ自動車の新車販売台数世界一位を維持するために、これからの自動車を構想し、実際にトヨタ自動車の方に提案する活動を中心に設定する。提案プランを構想する過程で、これからの工業生産で大切な視点について自覚できるようにする。実際に工業生産に携わる方との関わりを通して、工業製品は私たちの生活の向上に重要な役割を果たしていることを捉えながら、今後も社会と関わり続けようとする子どもを育てていく。

2 単元について

- (1) 本単元では我が国の工業生産について、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して地図帳や地球儀等で調べまとめ、工業生産に携わる人々の工夫や努力を捉え表現することを通して、工業生産に携わる人々は消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解することをねらいとしている。

本実践ではトヨタ自動車の新車販売台数世界一位を維持するために、これからの自動車づくりプランを構想し、実際にトヨタ自動車の方に提案する活動を中心に設定する。子どもたちはプランを構想し提案する過程で、携わる人々の願いや思いが充分にこめられて、自動車という工業製品が完成することに共感し、今後の工業生産において大切な視点にも気付いていくだろう。

また、実社会の方に複数回提案する機会を設けることで、子どもたちがいただいた価値付けやフィードバックをいかして、より実現可能な自動車づくりプランを提案できるようにする。このような学びの過程を経験することで身の回りの工業製品への関心を高めたり、その捉え方を広げたりすることにもつながると考える。

- (2) 子どもたちは、前単元で気候や地形をいかした地域の生活について学習している。本単元で工業生産の工夫や在り方について学ぶことは、食料生産などの他の産業の学習へとつながっていく。
- (3) 本単元に関する子どもたちの実態は次の通りである。（調査人数36人）
- ① 日本の工業生産に興味があると答えた児童は28名、ないと答えた児童は8名だった。後者の理由として、「工業生産についてよく知らないから。」「自分が自動車を運転できないから。」などが挙げられ、工業生産についてイメージが薄く、学習材との距離があることがうかがえる。
 - ② これからの工業生産でどんなことが大切だと思うか尋ねたところ、環境面が11名、分からないが7名、安全性が2名という結果であり、多面的に考えるまでには至っていない状況である。

3 単元の目標

- (1) 工業生産に携わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして工業生産を支えていることを理解することができる。
- (2) 自動車の製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に携わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することができる。
- (3) 我が国の工業生産について予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、多角的な思考や理解を通して主体的に課題を追究し、解決しようとしている。

4 指導計画（１１時間取り扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	1 学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昭和時代からの自動車の生産方法や性能に関する資料を複数提示し、生産方法・性能の変化について捉えられるようにする。 ○ 「2024年世界のグループ別新車販売ランキング」を提示し、トヨタ自動車がVWと僅差で一位であることに気付かせ、「日本の工業の発展を考えると、この結果がどうなるとよいかな」と問うことで、子どもたちの社会に関わろうとする思いを高め、主題を設定する。 	<p>【主】自動車づくりや性能の変化について関心をもち、今後の活動に対して見通しをもっている。</p> <p>(観察・振り返り)</p>
		これからの自動車づくりプランを提案しよう！	
2 ～ 9	2 自動車づくりについて追究し、自動車づくりプランを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ オンライン工場見学を通して、自動車生産に携わる人々の工夫や努力、こめられた思いを捉えられるようにする。 ○ 交通事故件数の推移など社会の現状やアンケート調査による消費者のニーズ等を基に提案プランを考えられるようにする。 ○ 自動車づくりプランを作成することに加えて「これからの工業生産で大切な視点」を考えさせることで、工業生産について多面的・多角的に考えられるようにする。 ○ トヨタ自動車の方に提案しフィードバックをいただくことで、自分たちの提案に立ち止まるきっかけにできるようにする。 ○ 工業生産で優先すべき視点について話し合うことで、再提案プランを考えられるようにする。(本時9／11) 	<p>【知】消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう工夫をして工業生産を支えていることを理解している。</p> <p>(発言・提案シート)</p> <p>【思】自動車の製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術に着目して、工業生産に携わる人々の工夫を捉え表現している。</p> <p>(発言・提案シート)</p>
10 ・ 11	3 学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本単元で見いだしたことや働かせた見方・考え方を中心に学びの足跡を作成できるようにする。 	<p>【知・思】要点をおさえまとめることができる。(学びの足跡)</p>

5 本時の学習

(1) 目標

工業生産で優先すべき視点について話し合うことを通して、ターゲットとなる消費者に応じた視点を優先して工業生産を行っていく重要性を捉え、再提案プランを考えることができる。

(2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
10	1 1回目の提案を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私たちはお客様視点からの具体例があまりないって指摘されたよ。そこを具体的に考えたいな。 ○ 僕たちも消費者目線で考えた方がよいと思ってるよ。 ○ アイデアの入れすぎは現実的ではなくなると話されていたね。 ○ 僕たちは安全面で提案したら、機能はよいものが多いけれど、価格が高い車は現実的ではないって言われたよ。どちらを考えればよいか困ったな。 ○ 提案後に夢見すぎていたって話していた人もいたね。
10	2 工業生産で優先すべき視点について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私たちは環境を第一に考えたいな。地球の問題が深刻だと思うし、そこに興味がある人もニーズ調査から多いということが分かるね。 ○ 私たちは安全面で、高齢者の立場を大切にしたいけれど、何でも機能を付けると価格が高くなるから現実的でないね。本当に必要かどうか考えたいな。 ○ 私たちは災害に強い車だったけれど、高齢者への目線も大切にしたいな。快適さの視点も優先して考えたい。 ○ 私たちは環境を大切にしたいです。地球温暖化など環境問題に関心がある多くの消費者に向けて車を考えることが優先すべきだと思う。 ○ 僕たちは高齢者に向けて安全の視点を優先して考えたい。でも、何でも機能をつけるのではなく、本当に必要だと考える機能を提案したいな。
15	3 再提案プランを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 班によって優先順位が違うね。 ○ 班によってターゲットが違うから、私たちはやっぱり様々な人が使いやすいUDの視点を優先して考えよう ○ 色々な機能をつけすぎても現実的にはならないね。 ○ 私たちは足りなかった人々のニーズの視点も入れたよ。生産者として消費者のことを考えた工業生産が大切だと考えたよ。
10	4 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私たちはやっぱりUDの視点にこだわろうと思ったな。使う人が便利だと感じる自動車を販売することがたくさん販売することにつながると思ったよ。 ○ なんでもよいと思う機能を入れていくと高くて売れない自動車になってしまうと思ったよ。トヨタ自動車の方も悩みながら自動車を考えているのかな。



前時までに自動車づくりプランを考え、トヨタ自動車の方に提案してきた子どもたち。本時では工業生産でどんな視点を優先すべきか話し合うことで、ターゲットとなる消費者に応じた視点を優先して工業生産を行う重要性を捉え、自動車づくりプランをよりよいものへと再考していきます。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示・教具・評価）

- 前時の提案後に消費者目線の視点が欠けていたと記述している子どもの振り返りを取り上げることで、工業生産で大切な視点を基に提案できていたことや視点が不足していた提案であったことを振り返られるようにする。
- 工業生産で大切な視点で提案することは重要であるが、アイデアの入れすぎには注意したいと記述している子どもの振り返りを紹介しその思いを広げたり、「どの視点を優先して工業生産をしていくべきだろうか」と問いかけたりすることで、再提案プランを考えるための立ち止まりを促し本時の課題を設定する。

どの視点を優先して工業生産をしていくべきだろう。

- ホワイトボードを活用しグループで工業生産の視点について優先順位の話し合いをさせること、その根拠も合わせて考えさせることで、プランを再考する際の見通しがもてるようにする。
- 机間指導の際に話し合いが促進しているグループには、その優先順位の根拠を問い返すことで、大切にしたい視点とその内実について具体的に考えられるようにする。一方、話し合いが停滞しているグループには、提案するターゲットに立ち返らせることで、その消費者にとって最適な視点について考えられるようにする。
- 全体での話し合いでは、立場カードを活用してどの立場に対しての考えなのか教師が整理することで、工業生産の在り方について多角的に考えられるようにする。また、優先すべき視点が異なる数グループを取り上げ、「班によって優先順位は異なってもよいのだろうか」と問い返すことで、ターゲットとなる消費者に応じて優先すべき視点も変わってくることを捉えたり、その考えに納得している子どもに発言を促すことで共感を学級全体に広げたりして、第二の課題を設定する。

【教材・教具】

- 学習支援ソフト
- ニーズ調査結果
- トヨタ自動車の方からのフィードバック
- ホワイトボード

自分たちのプランはその視点を優先して考えられているだろうか。

- 工業生産で優先すべき視点について十分に話し合い、共有できた後に自動車づくりプランを再考する機会を設けることで、優先すべき視点を基に再提案プランを考えることができるようにする。その際、再考することに難しさを感じているグループには、他のグループへのフィードバックやアイデアを参考に考えられるようにすることで、優先すべき視点の内実について考えられるようにする。
- 振り返りを行う前に、本時で話し合っ明らになったことやどのようなことを意識して優先すべき視点を考えたのかグループで話す機会を設定することで、どんなことを振り返るとよいか内容面・学び方の面で振り返りへの見通しをもつことができるようにする。

【評価】

ターゲットとなる消費者に応じた視点を優先して工業生産を行っていく重要性を捉え、再提案プランを考えている。（発言・提案シート・振り返り）

